

看護あきた

Nursing Akita

Vol. 115

平成25年度 4号

公益社団法人秋田県看護協会会報

[目次]

- 1 第40回 秋田県看護学会
- 2 特報 専門看護師が誕生
- 3 シリーズ 看護部長が看護の想いを語る
- 4 シリーズ 認定看護師 こまち紹介
- 5 地区活動報告
- 7 認定看護管理者教育課程 ファーストレベル
- 8 セカンドレベル
セカンドレベルフォローアップ研修実践報告会
- 9 訪問看護師養成講習会を終えて
- 10 衛星通信対応研修
オンデマンド配信研修
一般教育研修報告
- 11 第1回 中堅期保健師コンサルテーション事業
- 12 地域看護「健康の駅」の取り組み
- 13 理事会だより
- 14 役員等、代議員等立候補者の公示について
- 15 看護制度委員会からの情報
事務局からのお知らせ



横手 かまくら



平成25年度会員数(最終) 6,957名

保健師 298名 助産師 319名 看護師 6,062名 准看護師 278名

秋田県看護学会

メインテーマ 看護職の可能性

日時 平成25年11月27日(水)
9:30~15:45
場所 秋田県総合保健センター
参加者 205人
(会員:175人・非会員:1人・看護学生29人)



会長挨拶

災害に対するお見舞いのことば、成人看護学術集会の際のご協力に対して感謝の言葉を述べられた。成人看護Ⅱの学術集会に看護学生を招待したことから、今回の看護学生参加につながった経緯や、学会が40周年を迎え、たくさん発表できるようになったのは、看護研究支援ワーキンググループ立ち上げたことについて触れ、研究発表は、日々の仕事の中に題材はたくさんあり、それを究明することによって看護の質が高まり、業務改善にもつながると述べられた。

特別講演Ⅰ

『Quo Vadis 何処へ ~移植医療の歩みをたどる~』



秋田大学名誉教授・
公益財団法人あきた移植医療協会理事長
加藤哲郎氏

移植医療の歩みについて興味深く拝聴させていただいた。移植医療の歴史や秋田県における移植医療の沿革、そして、最新のiPS細胞までの流れをまとめて聞くことができるという事はなかなかできないことである。先生ご自身の経験や活躍された内容も盛り込まれており、学術的なことも含め、秋田県の移植医療の実態を知る事ができた。その中で私達看護師がどのような事ができるのかを考え、学習していかなければならないと感じた。

[アンケート結果から一部紹介]

- 移植医療について興味をもって聴くことができた。
- 移植について、初めて知る事、学んだ事が多かった。

特別講演Ⅱ

『豊かないのちの看取り』



医療法人社団慶成会 青梅慶友病院
看護介護開発室長・老人看護専門看護師
桑田美代子氏

「秋田県は初めてである。多忙なスケジュールを断っても秋田に来られたのは、医療法人社団慶成会の看護部長が秋田県出身という事、“老いの命をどう看取っていくか”看護部長が当院で誠心誠意やってこられたので、是非そのことを秋田に行き行って伝えたいと思った。」と冒頭で話された。

「“老い”そして“死”について、まずは自分達ならどういふうに命を終えたいのか、を考えてほしい。看取りの分野こそ看護職の役割を最も発揮する時である。」と強調された。講師の言葉通り、高齢化率第1位の秋田県においては尚更の事、生活に視点をおいたケアが必要であると実感できた。「最後に、『豊かな死は豊かな生と表裏一体』、老人看護はプラス思考、逆転の思考である。できる事を考え、できない事を強みに変えるのだ。」と、締めくくられた。

[アンケート結果から一部紹介]

- 秋田の身近な話だった。日々の看護について考える内容だった。素晴らしい内容であった。
- 老人が多くなり関わる機会も増えた。中でも病気(身体的)と認知症を併せ持った患者が多くなり、自分自身の考え方を变える必要性を感じた。
- 私の病院でも死を迎える高齢の方に負担のない医療を提供してあげたいと考えさせられた。

演題発表

示説4題、口演8題の研究発表が行われた。示説発表では、ポスターに工夫がみられ、発表後の意見交換も活発に行われた。口演発表では、ストレスや男性看護師に着目した演題が目立っていた。日々進歩していく医療現場の中で、働く看護師達の努力が伺える内容であった。

[アンケート結果から一部紹介]

- 患者さん側だけでなく、医療にかかわるスタッフに向けた研究もあり、充実した内容でした。
- 研究のまとめ方、分析の仕方など参考になった。



特報 専門看護師

秋田県で初めて専門看護師が2名誕生しました。
おめでとうございます！
現在専門看護師の特定分野は11あります。

秋田大学医学部附属病院
がん看護専門看護師

今野 麻衣子さん



がん患者さん・家族のQOL(生活の質)の向上を目指して

昨年12月にがん看護専門看護師(Certified Nurse Specialist in Cancer Nursing)の資格を取得することができました。秋田県では私がトップバッターですので、CNSとは何か、どういう人なのかということや医療者や患者さんたちに実績を示しながら知ってもらうことが第一の使命だと考えます。

がん看護の分野では、がんという疾患の特性をふまえ、治療期、進行期、終末期などにかかわらず、患者さん・家族のQOLの向上を目指して、実践、相談、調整、倫理調整、教

育、研究の6つの役割を發揮することが求められます。

新人CNSとして、まずは組織の看護力の向上をめざして、意思決定支援やセルフケア支援など根拠に基づいた実践、専門職としての倫理観の教育などに重点的に取り組んでいきたいと思っています。そして、今後増えていく仲間とともに、秋田県、地域のがん看護力の向上のために貢献できたらと考えます。

今後とも皆様のご指導、お力添えをよろしくお願いいたします。

専門看護師としての今後の抱負について

私は2013年3月、青森県立保健大学大学院のクリティカルケア看護学CNSコースを修了し、12月に急性・重症患者看護専門看護師の資格を取得しました。

2005年に救急看護認定看護師の資格は取得し2010年に1回目の更新も終えた時期、大学院での学びを考え入学しました。大学院での学びを私自身のステップアップに限らず、組織へ還元することが必要と考え専門看護師を目指すことにしました。私は、患者さんのベッドサイドでケア実践しながら、スタッフへの指導や日々起こる疑問や課題に関して相談を受けるのが認定看護師の役割と考えています。では専門看護師はとい

うと、患者さんのベッドサイドだけではなく、組織を視野に入れ介入し看護の質を向上させることが求められていると思います。

2年間の大学院生活を休職せずに終えるため、看護部や部署のスタッフの理解と協力があり達成できました。だからこそ専門看護師として活動し、組織での患者さん中心の看護が充実できるように努力します。



秋田赤十字病院 救急看護認定看護師
急性・重症患者看護専門看護師

小笠原 美奈さん



看護部長が 看護の想いを語る

No. 12 JA 秋田厚生連 湖東総合病院
看護部長

佐々木 由美子さん



知識と技術と心を磨き、質の高い看護を提供

新病院での病床再開の準備中

当院は、医師の退職で外来診療のみとなっておりますが、今年5月1日より新病院「湖東厚生病院」での入院を再開します。一般と回復期の病床を併設し、急性期から自宅・施設等への退院をつなぐ役割を担えるよう病棟再開に向けて準備中です。秋田市と能代市の間に位置し、秋田県の中でも特に高齢化と老人世帯の増加から老人福祉施設が集中しているエリアです。高齢化社会の先進地として、グループホーム・ショートステイとも連携し、看取りを含めた訪問診療・訪問看護にも力を入れ、在宅医療と病院機能をコラボした地域密着型病院を目指しています。

看護に対する想い

ベットサイドは、いつも私の元気の源でした。これまでをふり返ると、共に行動してくれる同僚や上司に恵まれ、くじけそうな時、心が折れそうな時、患者さんとの関わりで元気をいただきました。ある40代の胃癌終末期の父親が、学校帰りの子どもたちと在宅と同様に最期の時まで過ごせるように病室の環境を整えたり、自宅の縁側から庭木を見たいという余命幾日もない本人の願いをかなえるために家族と共に外泊の準備を進めました。今では当然のことですが、家族と一緒に考えながら実践した時代を、共に喜び達成感のあった時期として振り返ることができません。

うまくケアできなかった看護は、仲間と振り返ることで次に活かすことができました。今はチームとしての支援体制がシステム化され、患者・医療者ともにしっかり連携できる時代ですが、制度があっても、そこに心を添えるのは人であり、患者さんに寄り添う心であり、その人らしさを大切にしたい看護は譲れない点です。

メッセージ

現状維持は後退、看護の専門職として、常に“知識”と“技術”と“心”を磨き、質の高い看護を提供していく責務があります。目標は、仕事をしている自分に誇りを持つこと。働く場所の違いや、提供する保健医療福祉の内容の違いはあれ、自分の仕事に誇りを持つことが、一番のモチベーションだと思います。患者さんの回復や幸せを支援したい思いを学びへの動機づけとし、目の前の相手としっかり向き合い、チームで看護を語りあい、その人のためにケアを行う循環を、看護のやりがいにつなげ楽しく働けたら素敵です。「1+1+・・・」が和でなく無限大となり、ケアをする側も受ける側もHappyになれるよう、個々もチームとしても成長を続けたいと思います。

社会に対して

新病院では、訪問診療・訪問看護の推進を含め、これまで以上に周辺の医療機関、福祉施設のスタッフとの真の意味での連携が求められます。地域の方々が、住み慣れたこの地域で、安心して過ごせるように、病院の枠を超えた更なる連携を作り、地域での新たな役割を担えるように取り組んでまいります。



わたしのまちの看護師さん

シリーズ 認定看護師

「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんを紹介します。

山本 尚樹さん

こまち File No.33

市立秋田総合病院 中央部門（救急・手術室）
救急看護認定看護師

今取り組んでいること

私は現在、救急外来に所属し、救急車やウォークインで来院した患者の看護に従事しています。救急患者は突然の病気や怪我の発症から、苦痛や不安を抱えやすいといった特徴があります。そのなかで、病態の優先度に応じた迅速かつ適切なトリアージや、フィジカルアセスメントを行い、診断に結び付けるような看護と、患者・家族の擁護者として相談・調整的役割を果たし、Comfortに導けるような看護を実践しています。

院内の活動では、救急技術の維持・向上を目的に心肺蘇生、外傷看護、災害看護教育に携わり、日々、責任とやりがいを感じつつ、認定看護師としての役割を果たしています。ま

た、自分自身のさらなる成長のため、現在、大学院博士前期課程CNSコースに在学し、急性・重症患者看護専門看護師の取得に向けて精進しています。

皆と一緒にがんばりたいと思っていること

当院では小児救急外来を設置し、夜間・休日の診療を行っています。受診する患児の多くは軽症ですが、ときに状態悪化や急変に移行する場合があります。患児や保護者が安心して受診できるよう、救急部門が中心となって、救急体制の整備を行うことや、保護者を対象に応急手当講習会を実施し、小児の不慮の事故防止に貢献したいと考えています。



菅原 牧子さん

こまち File No.34

外旭川訪問看護ステーション
訪問看護認定看護師

今取り組んでいること

私は、訪問看護ステーションの管理者として日々活動しております。

看護職は私を含めて5名おり、私も一スタッフとして利用者のお宅へ訪問に出かけております。在宅で療養されている方の状態はもちろん、置かれている環境も多岐にわたりますので、スタッフと共に利用者さんを理解し、可能な限り利用者の意思を引き出し、尊重し、それを叶えるような支援を目指しています。また、在宅では様々な機関や職種との連携も必要になるためつながりを大切にしていきたいと思っています。

皆と一緒にがんばりたいと思っていること

在宅療養される方で医療依存度が高い方が年々増えています。利用者の状態そのものや、家族形態・介護力などから、在宅は無理だと周囲の関連職種が判断してしまう場面を目にすることがあります。ご本人の意志に添うことを第一に、地域の中でご本人が望む生活を継続できるよう、医療面・生活面含め支援していきたいと思っています。また、訪問看護サービスについての理解が充分でないと思うこともあり、日々の活動をとおして認知してもらえよう実践活動をしたいと思っています。



北秋田 地区支部

北秋田地区支部長 畠山 淳子

「1日看護学生」

7月26日 市内の高校生11名を対象に開催しました。「1日看護学生」は看護体験を通じて医療や看護への関心と理解を深めてもらう為、長年にわたり開催してきた事業です。この体験を通してあこがれや興味が「目標」へと変わった人や看護師になった人も沢山います。ピンク色の白衣に身をつつみ、病院内の見学や血圧測定、ME機器の装着体験、車イス移動や足浴など初めての経験にとまどいながらも瞳を輝かせていました。「看護師になりたいという気持ちが大きくなった」「看護師の気をつけている事や患者さんの気持ちも体験できて良かった」等々、うれしい声がたくさん寄せられました。少子高齢の時代を迎え医療を担う人材も減少している今、一人でも多くの志をもった人達が私達の後に続いてくれる事を願いながらこれからも続けていきたいと思えます。



「看護研修会」

10月5日 仙北組合総合病院皮膚排泄ケア認定看護師の飛澤貴子氏を講師にお招きして、「褥瘡とストーマ」研修会を開催、会員・非会員あわせて40名の参加でした。現場での事例を通してより具体的なケア方法や最新の治療を学ぶ機会となり大変好評でした。スキンケア用品の紹介では実際の製品を見せていただいたり、簡単な泡の作り方など休憩時間には講師を取り囲み真剣に話をしている姿も見受けられました。地区内には施設勤務の看護職も多く、普段なかなか交流も出来ない状況の中で、研修会を通して顔の見える交流もできたことは大変有意義であったと思います。

みなさんからは多くの研修会の開催を望む声も聴かれたので、今後も続けていきたいと思えます。

横手 地区支部

横手地区支部長 遠藤 まゆみ

「看護研究発表会」

横手地区支部では、12月11日「看護活動の研究を通して施設間の意見交換と学習の場とする」を目的に看護研究発表会を開催しました。「在宅人工呼吸器装着患者の退院支援」、「口腔ケアの介助を要する患者へ口腔ケアファイルを活用した効果」の2題を平鹿総合病院、「廃用症候群患者における効果的な吸入への取り組み」を市立横手病院、「人間ドック利用者における二次検診に対する意識とアプローチ方法の検討」を市立大森病院から計4題が発表されました。今年も秋田県立衛生看護学院の斉藤みずす先生より、1題ずつ時間をかけて講評してもらい、自分達ではなかなか気付かないところをご指摘していただきました。また、参加者からの声として、「同じ立場での他施設の取り組みを知ることができてよかった」という感想が多く聞かれ、有意義な発表会となりました。



能代・山本 地区支部



能代・山本地区支部長 近藤 昌子

「ふれあい看護体験」

7月22日管内地区4高校の高校1年生33名を対象に能代市内3病院でふれあい看護体験を行いました。初めての経験に最初は緊張気味でしたが手浴、足浴、清拭、搬送など患者さんとのふれあいを通してたくさん笑顔が見られました。多くの学生から「患者さんに声をかけてもらって嬉しかった」「やりがいを感じた」「看護師になれるよう頑張りたい」という声を聞くことができ看護師になりたいという思いが強くなったように



思われました。今回、体験した学生の中からひとりでも多く看護の道を目指して欲しいと願います。今後も、ふれあい看護を継続し多くの学生に心に響く看護体験ができるよう関わりを持っていきたいと思ひます。

「交流会」

10月19日能代地区支部の看護師の交流を目的に能代市働く婦人の家で講師に若松登美夫先生を迎え和菓子作りをしました。季節のクッキングということで秋をイメージした栗や桔梗、紅葉、バラの和菓子を作りました。先生のユーモアあふれる指導のもとで参加者全員職人になりぎりり和菓子作りに没頭しました。他施設の参加者とも交流も深まり各テーブルからは笑い声があがり、多いに盛り上がりました。

最後は、若松先生が冬の八甲田山をイメージした和菓子を作って下さいました。紅葉の上に雪が降り積もり、秋から冬にかけての季節の移ろいを感じました。今後も交流会を通じ、他施設との絆を深めていきたいと思ひます。

「研修会」

1月15日、感染管理認定看護師の小川伸氏を講師にお迎えして「冬の感染対策」というテーマで研修会を開催しました。これからの時期流行するインフルエンザとノロウイルスについて、

感染対策と日常業務の中で職員からよく質問されることがからも含めて詳しく講義していただき、大変参考になり自施設での取り組みを再確認できる内容でありました。感染対策は日々変化し、何が正解で何が間違いなのかわかりにくいところがあります。患者さんが安全・安



心して医療を受けられるよう、常に最新の情報や知識を得ていく必要があると痛感した研修会でありました。

今後も、さらに専門職として看護の質向上のために、さまざまな分野の研修会を企画していきたいと思ひます。



認定看護管理者

ファーストレベル教育課程を終えて



「現状」「課題」の共有!共感?合意!?新たな発見!!

教育目的

- 1 看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。
- 2 看護を提供するための組織化並びにその運営の責任の一端を担うために必要な知識・技術・態度を習得する。
- 3 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析する能力を高める。

実施内容

- 1 研修期間/平成25年5月22日～8月22日(28日間、計150時間)
- 2 受講者数:67名 修了者数:64名
- 3 ファーストレベル教育課程を受講して(集録より一部抜粋)



－時代に求められる看護の提供を目指して－

病院という職場を離れ、8年ぶりに机に座り勉強できたこの4か月は、今まできちんと立ち止まり考えることができなかった多くのことと向き合う機会になった。自分の長所・短所・得意・不得意、そして、自分には管理は向いていないと思っている今までを振り返り、自分が今できること、やらなければならないこと、そのために変わらなければいけない自分に気づくことができた。本当に自分がやりたい看護はなんなのか、そのためには今後どのような行動をとるべきか現状分析し、必要時には軌道修正しながら今後の自分の進むべき道をしっかり考えて方向性を明確にしていきたいと感じた。

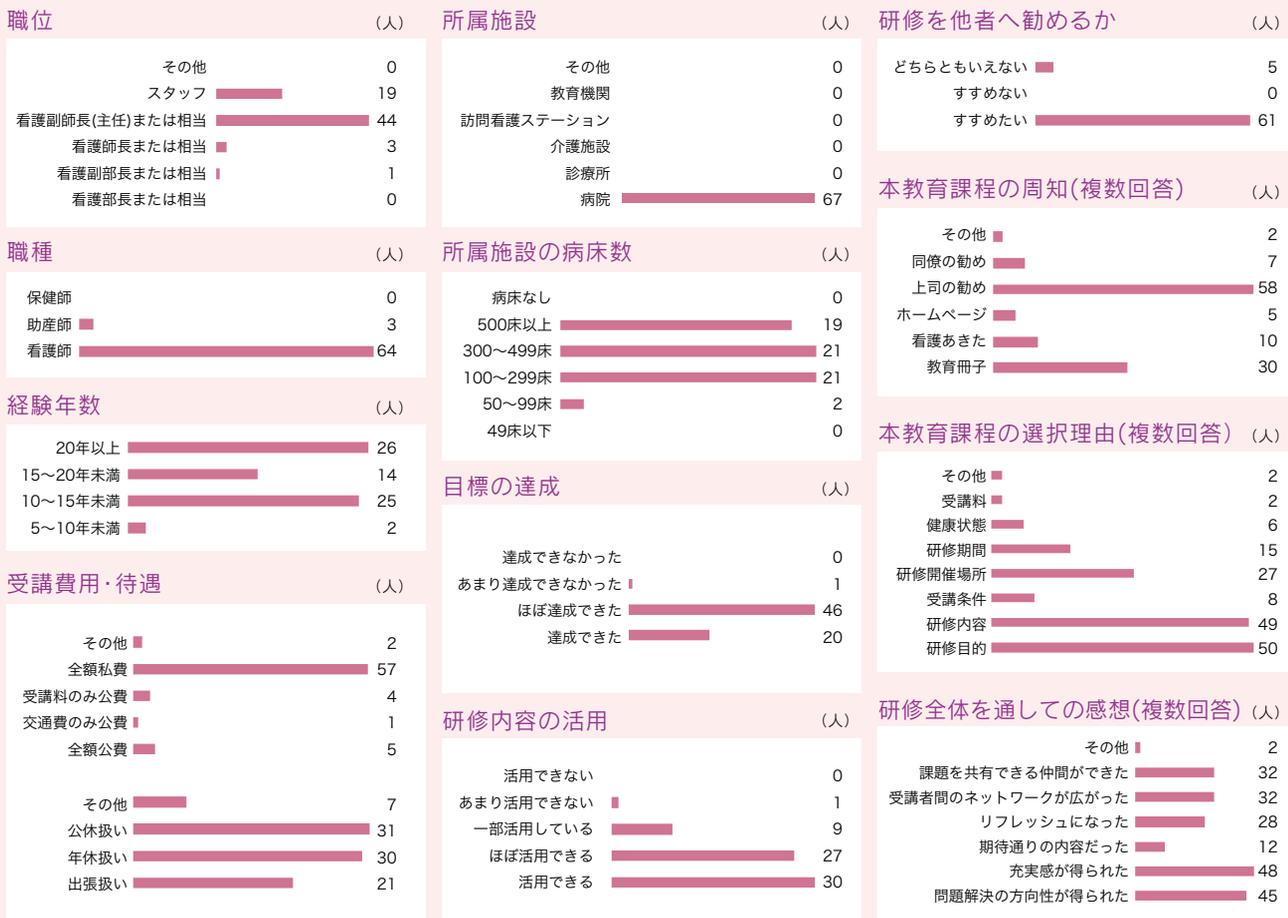
患者がその人らしく生きられるような看護をめざし、患者に寄り添い一緒に考えられる看護師であり続けられるように、日々、患者・家族・スタッフと関わっていきたい。

－看護専門職として学び続ける

－ということの意味を考える－

ファーストレベルを終えて今自分にできること、それは看護職の誇り、やりがい、魅力を後輩に繋げていく役割をしていくことだと思う。誠実に愛情を持って思いを伝えていくこと、看護場を振り返り、達成感を与えられるような関わりを心掛けていきたい。そのためにコミュニケーション能力を磨き、わかりやすく言語化して後輩に伝えていくことを自己の課題として、後輩育成に貢献していきたいと考えている。まだまだ未熟な私であるが、受講から得た学びを実践に活かし、前向きな姿勢で何事にも取り組んでいきたい。

研修アンケート結果



認定看護管理者セカンドレベル教育課程

第7期生

教育目的

1. 第一線監督者または中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。
2. 施設の理念ならびに看護部門の理念との整合性を図りながら担当部署の看護目標を設定し、その達成をめざして看護管理過程が展開できる能力を高める。
3. 地域特性を踏まえたヘルスケアサービス上の課題を明らかにし、達成に向けて行動できる。

実施内容 今年度より、新カリキュラム内容で講義および演習が実施された。

教育期間

平成25年9月3日～11月18日(189時間)

受講者数

18施設30名

受講者の職位

副看護部長・相当職：2名、看護師長：16名、
副看護師長・相当職：8名、主任・相当職：4名

講義内容からの学びと感想の一部紹介

- 1 医療経済論
 - 国際比較における日本の経済力や国力が衰退の一途をたどっていることを知り、医療経済の動向をみるための情報を持つことの重要性を痛感した。
 - 病院経営は、職員全員の意識改革が必要であることを学び、DPCについて理解できた。
- 2 看護組織管理論
 - 看護師一人ひとりの「知」を共有する、組織を作ることが必要であることを学んだ。
 - 自分が任されている組織を良好に運用するためには、周囲を巻き込んで分析することを学んだ
- 3 人的資源活用論
 - 一つの研修を計画するために、目標・評価方法を適切にデザインすることの重要性を学んだ。
 - 管理者として、適正な管理をするための人事システムや労働法令について多くのことを学んだ。
- 4 ヘルスケアサービス管理論
 - 講義の主語は終始「患者」である講師に感動し、常に「清潔ケアのなぜ？」を深めていきたい。
 - 医療から生活・介護への手渡しについて学ぶことができた。
 - エビデンスに理論的根拠と実証的根拠の二つの方向性があり、階級について学んだ。
- 5 統合演習
 - 自分の組織や役割を客観的に整理する時間を持つことの必要性を理解することができた。
 - 研修の集大成として意義のある内容だった。
 - ファーストレベル修了時は「学ぶことは自分が変わること」と感じたが、セカンドレベルでは「学ぶことは変革すること」と感じた。

まとめ

開講から7年目、今年度で202名の修了になります。平成26年度も多くの方の受講をお待ちしております。
研修を通して、多くの学びをし、何にも代え難い、宝物を得たと想います。
～ 今後のご活躍を、心から期待しております ～

専任教育担当 工藤 一子 記

第6期生

(平成24年度修了生)

認定看護管理者
セカンドレベル教育課程修了者

フォローアップ研修実践報告会

日 時／平成26年2月7日 9:30～16:00

場 所／看護センター 第一研修室

ねらい／認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程での学びを実践で活用している状況を紹介しあい、マネジメント能力の更なる拡大をめざす。

参加者／平成24年度修了者31名

受講者の感想(一部紹介)

- セカンドレベルを受講後どんな問題にあっても立ち向かっていけることを学んだ。
- セカンドレベル受講後、人は急には育たないことを実感し、日々スタッフに感謝し、必ず伸びることを信じて関わっている。
- 迷った時に、セカンドレベルの資料を振り返り「私のしたい看護」をぶれなく伝えることができた。
- 今まではトップダウンでの看護実践が多く効果が見えないことが多々あったが、セカンドレベルを受講後、スタッフを巻き込んでの看護実践ができ、とても効果があった。
- 研修受講した時と職場や職位は変わったけれど、セカンドで学んだことは日々の看護実践の大きな糧になった。
- フォローアップ研修実践報告会に参加し、仲間話を聞いて、また頑張ろうと思った。
- セカンドチームのネットワークを、今後も大切にして情報交換したい。



セカンドレベル受講しての学びを、日々の看護実践に活かした成果について、
熱く、熱く、語り、情報交換が展開されました。

～ 今後のご活躍を、心から期待しております ～

専任教育担当 工藤 一子 記

訪問看護師養成講習会を終えて

1. 目的

- 1) 在宅ケアを必要とする人とその家族に対して質の高い看護を提供するために、地域の特性や生活状況をふまえ、最新の知識技術を習得する。
- 2) 在宅ケアチームの中での役割を認識し関係機関との連絡調整ができるような訪問看護従事者としての資質を育成する。

2. 実施内容

- 1) 開催期間・時間数：平成25年4月23日～8月30日(延べ26日間)・153時間
- 2) 受講者数：10名、修了者数：8名

講習会終了日の
受講者の皆さん



まとめ

(受講者のアンケート結果から)

(1) 講習会に関する期待(複数回答)

内容	人数
訪問看護の知識習得	7名
介護保険・ケアマネジメントの知識習得	4名
実習による他施設の理解	4名
他の職場の人との交流	3名

(2) 目標の達成

内容	人数
達成できた	4名
だいたい達成できた	4名
ほとんど達成できなかった	0名
達成できなかった	0名
どちらともいえない	0名

(3) 今後の看護実践への活用

内容	人数
活かすことができる	8名
活かすことができない	0名
どちらともいえない	0名

(4) 講習会後の研修開催の希望

内容	人数
希望する	5名
希望しない	2名
その他	1名

今年度は10名の受講者で講習会を開催しました。少人数での開催となりましたが、講師の先生方の熱意ある講義に多くの刺激を受け、さらに実習では看護の継続性の意義を深く考察する機会につながりました。受講者お一人おひとりの真摯で主体的な学習姿勢は、これからの在宅医療の担い手の一員として、大いに役割が期待できると感じました。

♥来年度も看護職の皆さまの受講をお待ちしております。

平成25年度

衛星通信対応研修

日本看護協会 神戸研修センター主催

	研修テーマ	開催日	定員	受講者数
1	フィジカルアセスメント(基礎編)	6月 13・14日	60名	98名
2	災害医療と看護(基礎編)	7月 12・13日	100名	71名
3	高齢者の理解と認知症患者への対応(基礎編)	8月 8・9日	60名	58名
4	生活をつなぐ退院支援(基礎編)	11月14・15日	60名	77名
5	助産師のキャリアパス・クリニカルラダーの基礎的理解	12月14日	60名	32名

S-QUE研究会 日本臨床看護マネジメント学会主催

	研修テーマ	開催日	定員	受講者数
	'13看護必要度評価者院内指導者研修	7月7日	60名	59名
	看護必要度ステップアップ研修へ～記録と監査を中心に～	2月16日(H26年)	60名	59名

平成25年度

オンデマンド配信研修

日本看護協会 看護研修学校主催

	研修テーマ	開催日	定員	受講者数
1	労働者として知っておきたい 労働基準法の基礎知識-労働時間編	10月22日	60名	72名
2	看護職の夜勤・交代制勤務ガイドラインの 「勤務編成の基準」	11月12日	60名	42名

平成25年度

一般教育研修

カテゴリー	テーマ数	受講決定者数	受講者総数
新人教育	2	122名	117名
ジェネラリスト教育	14	2776名	2649名
管理者・指導者育成のための教育	2	155名	144名
介護福祉施設等で働く看護職の教育	1	56名	53名
トピックス	1	320名	308名
合計	20	3429名	3271名

今年度も多くの皆様にご参加いただき、教育研修会を開催できました。ありがとうございました。

来年度の一般教育研修は、24テーマの開催を予定しております。皆さまのご参加をお待ちしております。研修の受講決定は、定員を超えた場合には、講師との相談、会場調整などを行い、できる限りお受けしてはいますが、やむを得ず人数調整させていただくことがあります。その際は、施設内優先順位により決定しますので、研修参加を強く希望される方は、施設申込み代表者さまに相談の上、優先順位をご了解いただき、お申込みください。

次年度の開催テーマ・日程・申し込み方法等は、平成26年度教育計画冊子に掲載いたしますので、ご覧ください。お申込みをお待ちしております。

中堅期保健師 コンサルテーション事業 終了する

平成22年度から3か年かけて日本看護協会が取り組んできた「中堅期保健師コンサルテーションプログラム」の開発の成果を受けて、平成25年度から各都道府県看護協会がそのプログラムを実施することとなった事業である。平成25年度に取り組んだのは5県であり、その1県が秋田県看護協会、秋田県の委託事業として取り組んだ。

- ◆目的:「次期統括者の役割を担える中堅保健師の育成」
- ◆平成25年度受講者:7名、 コンサルタント:4名
- ◆実施期間:8月(前期プログラム)から2月(後期プログラム)迄の6か月間
- ◆研修場所:秋田県看護協会

プログラム内容は保健師の専門能力育成として、1.地域に潜在する健康分析ができる能力の強化、2.成果を新たな政策課題として提示できる能力の強化、3.力を組織で十分に発揮でき、働きかけやシステムの改善・提案・構築ができる能力の強化、4.共同で学びあうことによる、モチベーションの向上、保健師としてのアイデンティティの強化、を図ることである。

6か月の間、受講者は通常の業務の中で、課題提出から能力強化のための活動・自組織での活動計画に沿った実践、計画した事業の運営・進行・評価、関係職種や組織との認識共有・連携、地域の組織づくりの調整を図りながら成果をまとめ・考察し報告をする課程までを修了することができた。

最終日には日本看護協会の中板郁美理事の特別講演と全体の評価を頂いた。

修了証書をもらう表情には、やり終えた充実感・満足感がみなぎり、継続し努力していく気概が感じられた。今回の修了者が、後輩のモデルとなり、秋田県民の健康維持・増進のために能力を発揮されることを確信している。



一般公開研修風景



第1回 認知症認定看護教育修了式

1月31日、日本赤十字秋田看護大学卒後研修センターにて平成25年度 認知症認定看護師教育課程修了式が行われました。

秋田県内のみならず岡山県、福島県、青森県等からも受講されました。秋田県は、日本一の高齢県であり、今後、資格取得後は、認知症の予防や早期発見、家族支援などについて、医療・介護施設から在宅までの幅広い分野で、ご活躍いただけるものと期待いたします。

地域看護

地域を支え、つなぎあう
看護師の活動を紹介します。



横手市民の 健康づくりを応援する 「健康の駅」の取り組み

横手市健康福祉部健康推進課
保健師主査

佐藤 学さん

横手市では、市民が気軽に集い、健康づくりに励む場所を「健康の駅」と名付け、事業を推進しております。平成十六年度に小さな町内会館で始まったこの事業も、今では横手駅前の公共施設Y2(わいわい)ぶらざ内にトレーニングセンターを開設し、地域においては市内六十六箇所の公民館や町内会館等で事業を実施するまでになりました。平成二十四年度には年間一万人を超える市民が健康の駅を訪れており、健康づくりのムーブメントを感じております。

保健師の活動は、子どもから高齢者まですべての年齢層が対象となりますが、働き盛り世代への関わりがなかなかもてないことが課題でした。また、健康教室等を開催すると健康意識の高い、同じような顔ぶれの人たちが参加することが多いと感じていました。健康づくりの必要性を感じているものの、なかなか実行に移せない人たちの心をつかむにはどうしたらよいか悩みの種でし



た。しかし、このイメージは健康の駅の業務に携わってから一変しました。地域に健康づくりの場所をたくさん作り、地域の人たちが運営する形態をとることで、人のつながりができてくること。人付き合いが希薄になりがちな若い人には、誰にも気遣うことなく健康づくりができる場所を提供する。こうして、働き盛り世代が足を運びたくなる、そんなに健康意識が高くないでも行ってみようと思う、そうした環境が整い、市民が行動し始める姿を目の当たりにしてきたからです。

私は、これまで健康の駅が好循環で動いてきたことを次のように分析しています。自分の身近な場所で、身近な人たちが健康づくりに励んでいる姿を見ることで、体にいいことやっただから一度見に行ってみようかと、健康の駅の窓口まで足を運びます。窓口で足を運んでくれた人には、保健師や健康運動指導士などがその人にあった健康づくりの方法をコンシェルジュ(案内役)します。こうして、継続的な健康づくりを支援しながら、その人が自分の健康を守る力(保健力)を習得できるようにしていきます。ここまでできたら自分の健康は自分で守るという目標の達成です。

健康づくりに励む市民が多いまちは、まちが明るくなる起爆剤になると感じています。少子高齢化と自治体が抱える課題が多い中、横手市が健康の駅で明るく元気なまちになることを信じて、これからも保健活動に励んでまいりたいと思います。

理事会 だより

第6回 理事会

日時 ■ 平成25年11月22日(金) 午前9時50分～午後4時55分

場所 ■ 秋田県看護協会 第一研修室

出席者 ■ 理事18名、監事3名 欠席者: 理事2名

1. 議 事

- 1) 平成26年度秋田県看護協会重点事項(役割分担案)について……………承認
- 2) 平成26年度秋田県看護協会事業計画(案)について……………承認
- 3) 特別委員会の設置について……………承認
- 4) 常任委員会委員・特別委員会委員の選任について……………承認
- 5) 平成25年度補正予算(案)について……………承認
- 6) 平成26年度日本看護協会改選役員・推薦委員候補者の推薦について……………承認
- 7) 平成26年度日本看護協会会長表彰候補者の推薦について……………承認

2. 協議事項

- 1) 平成26年度秋田県看護協会改選役員について
- 2) 日本看護協会への要望について
- 3) 平成26年度日本看護協会名誉会員候補者の推薦について
- 4) 平成26年度認定看護管理者教育課程ファーストレベルについて
- 5) 秋田県看護センター建設(改修)資金積立について
- 6) 訪問看護ステーションあきた飯島出張所について
- 7) 理事報酬の改正について
- 8) 平成26年度予算編成方針に関する留意事項について

3. 報告事項

- 1) 日本看護協会地区別法人委員会・職能委員長会報告
- 2) 秋田県看護行政懇談会報告
- 3) 平成25年度第44回日本看護学会－成人看護Ⅱ－学術集会について
- 4) 事業報告
 - (1) 業務執行状況報告
 - (2) 地区支部事業報告
 - (3) 庶務報告
- 5) 会計報告
- 6) 平成25年度会員入会状況と平成24年度入金未納者の状況について
- 7) 中間監査の報告
- 8) 財務に関する検討会報告
- 9) 教育研修企画の進捗状況について
- 10) 認定看護管理者教育機関視察について
- 11) 公益法人の各機関の役割と責任について

第7回 理事会

日時 ■ 平成26年1月24日(金) 午前9時50分～午後4時16分

場所 ■ 秋田県看護協会 第一研修室

出席者 ■ 理事19名、監事3名 欠席者: 理事1名

1. 議 事

- 1) 平成25年度補正(修正)収支予算(案)について……………承認
- 2) 公益社団法人秋田県看護協会理事報酬等支給規程の一部改正について……………承認
- 3) 訪問看護ステーションあきた運営規程の一部改正について……………承認
- 4) 財務検討委員会設置要綱(案)について……………承認
- 5) 財務検討委員会委員の選任について……………承認
- 6) 普通預金口座の停止について……………承認
- 7) 固定資産の除却について……………承認
- 8) 平成26年度秋田県看護協会事業計画(案)について……………承認
- 9) 平成26年度秋田県看護協会教育計画(案)について……………承認
- 10) 平成26年度秋田県看護協会通常総会プログラム及び議案(案)について……………承認
- 11) 平成26年度秋田県看護協会会長表彰受賞者(案)について……………承認
- 12) 会長臨時代理の決定について……………承認

2. 協議事項

- 1) 日本看護協会への要望について
- 2) 平成26年度予算積算状況について
- 3) 平成26年度秋田県看護協会行事日程について
- 4) 公益社団法人秋田県看護協会謝金等規程(案)について
- 5) 公益社団法人秋田県看護協会常勤役員及び職員の行う講演・講義・執筆等に関する規程(案)について
- 6) 特別委員会の今後の取り扱いについて

3. 報告事項

- 1) 日本看護協会理事会報告
- 2) 事業報告
 - (1) 業務執行状況報告
 - (2) 地区支部事業報告
 - (3) 庶務報告
- 3) 会計報告
- 4) 平成26年度認定看護管理者セカンドレベル教育課程の実施について
- 5) WLBワークショップについて
- 6) 平成25年度日本看護学会－成人看護Ⅱ－学術集会決算報告
- 7) 財務に関する検討会報告
- 8) 公益法人の立入検査結果について

平成26年度 役員等立候補者の公示 について

平成26年度役員等の選挙につきまして、下記の候補者が立候補されましたので公示します。

秋田県看護協会選挙管理委員会
委員長 奈良 寿美子

1. 平成26年度 理事・監事候補者名簿 (任期－理事2年、監事4年 所属・年齢－平成26年2月1日現在)

役職名	氏名	職種	所属施設名	協会活動歴	年齢	摘要
理事	高島 幹子	看護師	秋田大学医学部附属病院	現サードレベル準備委員長	59	推薦委員会推薦
理事	菅原 トシエ	助産師	ひがし稲庭クリニック	元理事	63	推薦委員会推薦
理事	福田 幸子	看護師	秋田県看護協会	現常務理事	65	推薦委員会推薦
理事	石黒 博子	看護師	介護老人保健施設 遊心苑	現理事(会計)	62	推薦委員会推薦
理事	守屋 陽子	看護師	在宅(秋田市)	現理事(看護師職能)	59	推薦委員会推薦
理事	高橋 洋子	看護師	県立リハビリテーション・精神医療センター	現地区副支部長	54	推薦委員会推薦
理事	三浦 瑞枝	看護師	本荘第一病院	現理事(地区支部)	48	推薦委員会推薦
理事	佐藤 セツ子	看護師	市立横手病院	元地区副支部長	57	推薦委員会推薦
理事	阿部 比登美	看護師	雄勝中央病院	現地区副支部長	56	推薦委員会推薦
理事	櫻庭 文子	准看護師	藤原記念病院	－	50	推薦委員会推薦
監事	井上 栄	看護師	秋田県福祉相談センター	現監事	65	推薦委員会推薦

2. 平成26年度 推薦委員会委員候補者名簿 (任期－2年 所属・年齢－平成26年2月1日現在)

氏名	職種	地区	所属施設名	協会活動歴	年齢	摘要
佐々木 冷子	看護師	県北	秋田社会保険病院	元理事	58	推薦委員会推薦
野崎 富士子	看護師	中央	土崎病院	元地区支部委員	57	推薦委員会推薦

平成27年度 代議員等立候補者の公示 について

平成27年度日本看護協会代議員及び予備代議員につきまして、下記の候補者が立候補されましたので公示します。

秋田県看護協会選挙管理委員会
委員長 奈良 寿美子

代議員候補者(推薦委員会推薦) (代議員数8名、任期－平成27年度1年間、所属・年齢－平成26年2月1日現在)

No	推薦区分	氏名	職能別	所属	協会活動歴	年齢
1	保健師職能	中村 悦子	保健師	秋田市長寿福祉課	現保健師職能委員	35
2	助産師職能	工藤 佐智子	助産師	山本組合総合病院	現理事(助産師職能)	45
3	看護師職能	守屋 陽子	看護師	在宅(秋田市)	現理事(看護師職能)	59
4	看護師職能	豊嶋 純子	看護師	中通リハビリテーション病院	現看護師職能委員	53
5	看護師職能	上村 勝也	准看護師	今村病院	現看護師職能委員	39
6	鹿角地区支部	木村 陽子	看護師	かづの厚生病院	－	44
7	秋田臨海地区支部	目黒 祐子	看護師	男鹿みなと市民病院	現地区支部委員	47
8	由利本荘・にかほ地区支部	菊地 綾子	看護師	由利組合総合病院	元委員会委員	54

予備代議員候補者(推薦委員会推薦) (予備代議員数8名、任期－平成27年度1年間、所属・年齢－平成26年2月1日現在)

No	推薦区分	氏名	職能別	所属	協会活動歴	年齢
1	保健師職能	本田 由喜子	保健師	秋田県人事課	現保健師職能委員	49
2	助産師職能	藤井 美佐子	助産師	市立秋田総合病院	現助産師職能委員	46
3	看護師職能	田口 典子	看護師	仙北組合総合病院	－	55
4	看護師職能	猪股 洋子	看護師	介護老人保健施設かみの里	現看護師職能委員	59
5	看護師職能	櫻庭 文子	准看護師	藤原記念病院	－	50
6	鹿角地区支部	田原 恭兵	看護師	大湯リハビリ温泉病院	－	27
7	秋田臨海地区支部	佐々木 和子	看護師	秋田大学医学部附属病院	現地区支部委員	57
8	由利本荘・にかほ地区支部	大須賀 滝子	看護師	本荘第一病院	現WLB委員	55

INFORMATION

事務局からの連絡・報告

平成26年度公益社団法人秋田県看護協会通常総会が
次のとおり開催されます。

1 日時	平成26年6月18日(水)9時30分～15時30分
2 場所	秋田県総合保健センター 2階 大会議室
3 次第等	9時30分 開会 会長挨拶、来賓祝辞、秋田県看護協会会長表彰等 10時30分 報告 25年度事業報告、26年度重点事項・事業計画 26年度収支予算等 議案 25年度決算、26年度役員改選、会長候補者選出等 14時00分 特別講演「労働と看護の質に関するデータベース(DiNQL)」(仮題) 講師 日本看護協会 常任理事 松月 みどり氏

「国際助産師の日」記念行事開催

開催日時:平成26年4月26日(土)13:00～16:00
会場:御所野イオン 2階 イベントスペース
対象者:秋田県民(どなたでも参加可)

「看護の日」フェア開催

開催日時:平成26年5月10日(土)10:00～14:45
会場:秋田拠点センターアルヴェ 1階 きらめき広場
対象者:秋田県民(どなたでも参加可)

看護制度委員会からの情報

ハヤヨミ!看護政策NO139より(2014年2月13日)日本看護協会 広報部

医療・介護関連一括法案を閣議決定した。 特定行為の研修制度 法制化へ

2月12日の閣議で「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律案」の国会提出が決定した。

この法案は、地域における効率的かつ質の高い医療提供体制の構築などを通じ、必要な医療・介護を推進するための関係法律の整備を行うもの。特定行為に係る看護師の研修制度の創設など、看護関連の法改正事項が数多く盛り込まれている。具体的な内容の一部は下記に示す。

【保健師助産師看護師法の改正】

高度・専門的な知識・技能が必要な特定行為を手順書(プロトコール)に基づいて行う看護師に指定研修機関での研修を義務付けること。

特定行為、43行為名の案がまとまる。

- 例) 直接動脈穿刺による採血、気管カニューレの交換、人工呼吸器モードの設定条件の変更など
包括的指示・具体的指示が行われてから診療の補助が行われるまでの流れのイメージが作成され
厚生労働省のホームページにアップされているのでご覧ください。

厚生労働省HP ⇒ チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループ

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

立春を過ぎても厳しい寒さが続いていましたが、ソチオリンピック開催中はその熱気が極寒を吹き飛ばしてくれました。この時期、新年度に向けて忙しい毎日をお過ごしのことと思いますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

今年度から広報委員となり、初めての編集作業と時間の流れの速さに戸惑いつつも無事に今年度最終号を発刊することができました。加齢の変化に負けない順応性と感度を維持しながら、来年度も広報委員を務めたいと思います。

広報委員会はこれからも会員の皆様に興味を持って頂ける話題提供を目指します。たくさんのご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。(記・富樫 まゆみ)

看護あきた Vol.115 平成25年度 4号

Nursing Akita



発行日/平成26年3月7日

発行責任者/公益社団法人 秋田県看護協会 会長

発行所/公益社団法人 秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172

印刷所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577